



学校だより

横浜市立矢上小学校

☺手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子☺

3月号

発行日 令和6年2月29日

「笑顔いっぱいの矢上小」を目指したこの1年を振り返る。そして心からの感謝を。

校長 岸 俊介

先日、渡邊副校長をファシリテーターとして、職員研修を行いました。「授業づくり」に関する研修です。授業を見直す視点として、次の4つを話題にしました。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| (1)自己存在感の感受を促進する授業づくり | (2)共感的な人間関係を育成する授業 |
| (3)自己決定の場を提供する授業づくり | (4)安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業 |
- 「生徒指導提要(文部科学省)」2.2.3教科の指導と生徒指導の一体化 より抜粋引用

今、学校では国語、算数、体育…といった「教科教育」だけでなく、他にも様々なことを学んでいます。例えば、国際理解教育、情報教育、人権教育、キャリア教育…(この「〇〇教育」の話題はまた別の機会に…)学ぶ内容は違えども、上記の「教科の指導と生徒指導の一体化」の視点は、すべての授業のベースになるものです。研修のなかで職員は、「自分の授業は(この視点に照らし合わせて)どうだったか?」を振り返っていました。

この一年間、学校教育目標「手をつなぎ 笑顔いっぱい 矢上っ子」の達成を目指してきました。「誰もが安心して学べる」学校づくりを目指してきました。「午前中5校時・40分授業」の実践は、子どもの集中力の高い午前中の有効活用により効果がありました。「デジタルドリルの導入」は、一人ひとりに応じた「学習の個性化」に効果がありました。また、前述の「教科の指導と生徒指導の一体化」を意識して授業づくりを行いました。多様な学びの場(学習支援・適応支援・登校支援…)にチャレンジする取組として「矢上っ子ルーム(特別支援教室)」を地域コーディネーターやボランティアの方の力を借りながら充実させてきました。これらはすべて、矢上っ子の「笑顔」に近づくためです。

「協働的な学び」も重点的に意識しました。令和5年5月、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に変更になり、活動に制限がなくなりました。5月以降特に、学校の存在意義である「協働的な学び」に重点を置きました。しかし、これについてはまだまだ粘り強い取組が必要であると考えます。「ソーシャルディスタンス」を意識した「あの時間」を乗り越え「協働的な学び」を深めていくには、もう少し時間がかかりそうです。

12月の50周年記念式典で、全校児童が体育館に集まり、同じものを見て笑い、驚き、歌い、体を動かし…会場が一体となって盛り上がったあの時間を思い出すことがあります。2月の学習発表会集会で、代表児童が作品を見せたときの全校児童の、自然に湧き上がる大きな歓声・拍手…。その場にいる人間の誰もが心を動かされたあの時間。

この2つの出来事は「誰もが安心して」自分の気持ちや感情を表出し「協働的な学び」を深めた例と言えます。人は人との豊かなかわりの中で、何かを感じ、変化・成長をしていきます。来年度も「誰もが安心して」「協働的な学び」を通して成長する学校でありたいです。

学校は職員だけで運営できるものではありません。保護者の皆様、地域の皆様には「子どもたちと一緒に育むパートナー」として学校運営に参画していただきました。職員と保護者の皆様・地域の皆様が「手をつないで」学校運営に取り組む場面がさらに増えたと実感しています。

保護者の皆様や地域の皆様の温かい応援や「やりますよ!」というお声にどれだけ励まされたか。保護者会等でも、励みになる言葉を頂戴したと聞いています。担任や職員はどれだけ勇気をいただいたか。改めて感謝申し上げます。来年度もみなさんと一緒に「笑顔いっぱい」の矢上小にしていきたいです。

■～お知らせ～安全かつ持続可能な登校について検討を始めます!■

安全かつ持続可能な登校の在り方についてPTAと学校が意見交換を重ね、3月1日～3月25日「自由登校トライアル」を実施し、今後の登校について検討を始めます。保護者の皆様には詳しいおたよりを配付済です。ご理解とご協力をお願いします。なお、令和6年4月から当面の間、引き続き登校班による登校となります。

【学校の様子をホームページにてお知らせしています】
各学年の活動や学校からのお知らせを掲載しています。ぜひご覧ください。
<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yagami/>



↑QRコード↑